



国土交通省

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト 清水港 興津第2埠頭の整備

(1964~1974)



1962年の興津第1埠頭の工事着手に続いて、1964年(昭和39年)、興津第2埠頭の工事に着手しました。

1968年(昭和43年)に東側の6~7号岸壁が完成、1970年(昭和45年)には西側の12~14号岸壁が完成し、同年、12号岸壁に清水港で初めてコンテナ荷役用のガントリークレーンが設置されました。その後、1974年(昭和49年)に、埠頭先端部分にあたる9~11号岸壁が完成し、現在の興津第2埠頭の形となりました。

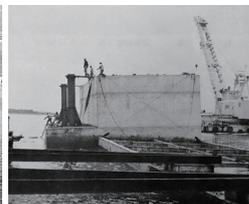
1970年代から1990年代にかけて、主にコンテナの輸出入や完成自動車の輸出拠点として利用され、現在は、紙パルプの輸入や冷凍マグロの荷揚げが行われています。また、近年は、地球深部探査船「ちきゅう」の係留地としても利用されています。

- 主要施設 / 興津6~9号岸壁(水深10m、延長185m×4バース)
興津11~12号岸壁(水深12m、延長220m×2バース、耐震構造)
興津13~14号岸壁(水深10m、延長185m×2バース)
- 構造形式 / 興津6~9号岸壁：重力式岸壁(ケーソン)
興津11~12号岸壁：重力式岸壁(ケーソン)
興津13~14号岸壁：栈橋式岸壁
- 事業期間 / 1964年(昭和39年)~1974年(昭和49年)

工事中の興津第1・第2埠頭 (1965年)



興津13号岸壁 栈橋上部の構築工事 (1966年)



興津12号岸壁 ケーソンの据付作業 (1968年)

現在の興津第1・第2埠頭 (2021年4月)



完成後の興津第2埠頭 (1983年)

現在の利用状況



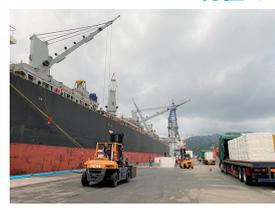
興津12号岸壁に、清水港で初めてコンテナ荷役用ガントリークレーンを設置 (1970年6月)



ガントリークレーン1号機で初の本船荷役 (1970年7月29日)



完成自動車の輸出 (1978年)



輸入紙パルプの荷揚げ (2021年4月)



地球深部探査船「ちきゅう」の係留 (2021年5月)